

建築家

通信

2015.4.10
vol.105

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
J I A 長野県クラブ

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

ふたたび、つまらなくて価値のあるもの

内藤 廣

いつも持ち歩き、あらゆることを書き留めているノートがある。予定表、メモ、面白かった展覧会の切り抜き、プロジェクトのスケッチ、なんでもこの一冊のノートに納めるようにしている。実は、ただの市販の能率手帳だ。建築家なんだからもっとカッコイイものをつかってはどうか、とよく言われた。デザイナーからは、冷ややかな侮蔑の眼差しを投げかけられる。しかし、三十年も前から同じものを使っているので、おいそれとは変えられない。

このノートを包んでいた革製のカバーがある。究極的に金がなかった三十代の終わりの頃、奮発して革屋さんに頼んで作ってもらったものだ。誇りを捨てないために、心の支えとして何かほしかったのだと思う。焦げ茶色の牛革で、インクの染みがあり、無数の傷があり、折り曲げる背のところはヒビだらけ、肩の所は摩擦で大きく削られている。あまりにボロボロになったので数年前に二代目になったが、二十年以上は片時も離さずに持ち歩いたものだ。

他人から見たら、何の価値もないみすぼらしいカバーだが、わたしにとってはかけがえのない価値のあるものである。こんなようなものは、誰も持っているはずだ。これが本当の「価値あるもの」であり、この本当の価値というものは、生み出すものではなく、生まれてくるものであり、なおかつきわめて個人的なものなのだと思う。わたしの建築も、この革製のカバーのようなものでありたいと思っている。建築は生み出されるものだが、その中に唯一無二の価値が生まれてくるようなもの、それを傷だらけになって守るようなもの、そして、生まれてくる体験がそれぞれ異なる個人的なものであるようなもの、それができれば本望だと思っている。

十年ほど前(2002年)に「つまらなくて価値のあるもの」という文章を書いた。

「私の設計する建物は、どちらかといえば面白みに欠ける。エキサイティングでなく、ドラマチックでなく、啓示的でもなく、少し無愛想で、やや頑なで、淀んでいる。」

かなり挑戦的な文章だ。当時、バブル経済崩壊後、空白の十年、その停滞を都市政策で巻き返そうと、いくつもの巨大開発が立ち上がりつつあった。世に言うミニバブルの到来である。あぶないあぶない。これはいつか来た道だ。80年代の狂乱のバブル経済のとき、建築界はこれに連動して、右から左までポストモダニズムという流れの中で、奇妙な形をした装飾過剰の安手の建物を量産してしまった。それに警鐘を鳴らすつもりもあった。

建築は経済の動向と密接に結びついている。経済が良くなれば、建築も良くなる。しかし、だからといって良い建物が生まれてくるとは限らない。本来なら、多少なりと

も建物が建つ時代に、次の時代に手渡せる社会資本としての建築を蓄積していくべきなのに、多くの場合、目先の経済の動向に乗せられてしまって、浮かれた建物がたくさん出来てくる。これでは同じことの繰り返しだ。

建築家は、建て主の前で「芸」を披露しなくてはならない。そうすると、何か面白いもの、目新しいもの、建て主を喜ばせるもの、驚かせるもの、そんなものばかりに目がいくようになる。しかし、建築家が本当に喜ばせなければいけないのは、目の前の建て主だけではない。何世代にも渡って、それを使う人々の喜びとならなければならないのである。一口に「芸」といっても、世代を越えて価値を継承していくようなもの、これは昨今流行の一発芸とは対極にあるものだ。残念ながら、建築の表現も若手芸人に習って一発芸が多くなりつつある。

「つまらなくて価値のあるもの」とは、「つまらなくてよい」と言っているわけではない。「面白くて価値のないもの」ばかりが目立つようになってきているので、あえて「面白さ」を捨ててはどうか、それよりは世代を越えて受け継いでいけるような「価値のあるもの」を目指してはどうか、と提案しているのである。また、多くの人が「生きること」、「生き生きと生きること」を価値の中心に据えてはどうか、と言っているのである。人の心は飽きやすい。一発芸と同じで、「面白さ」は一時もてはやされるが、すぐに「時代遅れ」になる。そんなものを建築という価値の中心に据えてよいはずがない。

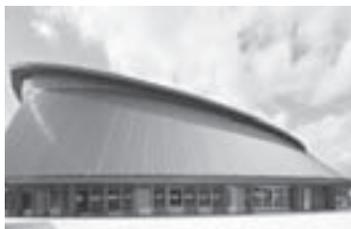
わたしのボロボロのノートカバーのように、「つまらなくて価値のあるもの」は、われわれの身近な暮らしの中に散りばめられている。その在り方に目をやり、その在り方に学び、その思考を建築という大きな枠組みの中に実現すべきだ。それが手に入れば、その建築は「面白くて価値のないもの」を笑い飛ばす力を内に秘めることができるはずだ。



安曇野市庁舎 外観



安曇野市庁舎 議場



静岡県草薙総合運動場体育館 外観



静岡県草薙総合運動場体育館 内観

建築祭

「文化講演会」に参加して

丸山 淳治



内藤先生は震災の復興における土木と建築の融合についてお話されていました。私も震災時に気仙沼・陸前高田・大船渡に行っていた経験もあることから非常に親近感を持ってお話を聴きました。建築は生活の近くで寄り添い、土木は政策に寄り添う傾向があると仰っていました。美しい東北の景観が大防波堤と高台移転でいっぺんに進んでいってしまう怖さを知りました。是非、協力会

の皆様も来年以降も文化講演会にもお越しいただき、建築の奥深さを共有して長野県クラブをご一緒に盛り上げていきたいです。私は松本の協力会員として参加しやすい距離ですので、毎年準備から後片付けまでお手伝いしておりますが、正会員の皆様と一緒に汗をかきながら一つの行事を作り上げて行くのは感慨深いです。協力会員としても、正会員や他の協力会員と仲良くなる交流のチャンスです。是非多くの協力会員の皆さんにも来年以降も参加して貰いたいと思います。

「建築祭 総評」

菊池 弘之



講演会後の質問に対しても質問者の気持ちを汲み取った回答を頂き、卒業設計コンクールは学生との対話を主に時間を割いた審査となり、

文化講演会の講師・審査委員長として内藤廣先生をお迎えして今年の建築祭も終了しました。

長野県クラブでは2回目となる内藤先生の講演でしたが、安曇野市庁舎での共同設計された尾日向さん、小川原さんお二人の口添えによりお招きできました。

先生と出展者との対話の中に優しい人柄が伺えました。

松本市美術館からの提案で今年から金曜日の午後に学生卒業設計の設営を行い、土・日の2日間と卒業設計展が行えました。その結果、市民審査票を190票も投票頂きました。ベスト5に高校生が2名入り、設計作品のレベルの高さを感じました。

長野高専から2作品出展されて、今年は審査対象では、ありませんが、数年後、専門学校での活躍をお待ちしております。

松本市美術館・各学校ご担当教諭・会員・協力会員・事務局の皆さんのご協力のお蔭を持ちまして終了しました。感謝申し上げます。



長野県学生卒業設計展・コンクール

建築に向き合う姿勢

北村 浩康



今年度の学生卒業設計コンクールは、多くの市民の方に学生の作品を見て頂くため、2日間の展示となりました。市民賞の投票数も例年を大きく上回る結果となり、学生の皆さんにとっても良い刺激になったのではないのでしょうか。

最終日の審査では、審査員の方からこれから社会に出て行く若者に向け、温かい言葉をかけて頂きました。審査員の方から頂いた印象に残る言葉を簡単ですがご紹介したいと思います。

高校生には、これからの歩み方として、自分の個性を探っていく自分探しの大切さを。

専門学校生には、それぞれが感じている世の中に対する問題意識は間違っていないこと。これからは問題意識を建築という言葉に置き換える修練が必要であることを。

大学生には、建築という「かたち」にすることの難しさ、それには強い意志が必要であること。巧く行かない下手さ加減にも人間の個性が現れること。説得ではなく納得してもらうプレゼ力の必要性。二十代ですべてのことを一度否定してみる大切さを。

学生と一緒に参加した私にとっても、あらためて建築に向き合う姿勢を考える良い機会となりました。

「長野県学生卒業設計展・コンクール」に参加して

群馬地域会 代表幹事 曾田 彰



20数年ぶりに訪れた松本は、例年にくらば暖かく穏やかで、歴史的な文化都市を肌で感じることができました。松本市美術館の審査会場に並べられた学生たちの力作は、まるでアート作品のようで、観る人達にとっても建築作品の図面、模型の熱気が伝わってくるものでした。

前日の文化講演会でも熱のこもった講演をされた内藤廣さんを審査委員長に6名の審査員は、学生達のフレッシュなアイデアと熱気に押されながらも、様々な角度からの意見、検討、活発な議論を重ねました。その結果、各部門、金賞は全て女性！また特に高校部門のレベルが高く、そのほとんどが女性だったこともあり、これからの建築界の女性の時代を予感させるものとなりました。受賞された皆さんおめでとうございました。惜しくも賞に届かなかった作品もそれぞれ熱い思いと努力の成果があらわれていたと感じました。卒業後のさらなる飛躍を期待しています。また準備、運営に尽力された長野県クラブの皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

くらしの空間セミナー

大場と急場 川上 恵一



恒例になった建築祭も第9回目となり、今年も松本美術館との共催で場所もイベントも大成功だった。目玉は内藤廣と藤森照信両氏の2週続けての登場である。予定の100人をはるかに越えて膨れ上がった会場は静かに深く楽しい雰囲気に包まれていた。内藤氏は最新作の安曇野市庁舎の苦労話や震災後の自身の対応について独り言のように話していた。

先生を囲んでの夜の飲み会はそのままの延長戦での本音トークで盛り上がった。翌日の学生卒業設計コンクールで審査員長としての立ち回りは学生に向けての暖かいまなざしが印象的だった。翌週は藤森先生が「戦後住宅は何を求めてきたか」というタイトルで話された。敗戦後の復興に向けて大衆の生活改善から公団住宅の取り組みと片やトップ建築家の問題作とも言える新住宅への挑戦のすばらしさと、今われわれがやっている大多数の住まいづくりの歴史的位置付けを教えてくれた。この二人に共通していることはわれわれには勿論のこと一人の生活者として同じ目線で話してくれることだ。我がクラブも公益法人となり市民との交流が深くなってさらに大切な活動だと認識を新たにした。

藤森照信講演会を聴いて

荒井 洋



2月28日 松本市との共同企画「ひと、まち、建築 見つめようくらしの場2015」の最後のイベント「くらしの空間セミナー」講演会が開催された。講師は藤森照信先生で演題は「戦後住宅は何を求めてきたか」。これは今年開催される美術館の企画展「戦後日本住宅伝説」に関連づけたものだろうと思われるが、今年の前半は建築が中心となった様々な催しが企画されている。今まで松本市の美術館が建築を美術として扱ってくれたことはほとんど無く大変喜ばしいことである。建築祭の共同開催という地道な活動が9年目にしてようやく実った形だろう。

講演内容は、戦後の住宅は基本的な流れがきちんと研究されていないのははっきり分かっている集合住宅と建築家が設計した住宅を話しながら本体の90%以上を占める一般住宅のことを考えていくというものだった。集合住宅は国が指導して全てが進められたものでありダイニングキッチンが戦前の住宅では全くなかった新しい平面計画であったこと。一方の建築家の住宅は、使いやすいか住みやすいということは全く考

えることなく自分のやりたいことをやった革新的な住宅であること。その両方の大きな影響を受けつつ、伝統的な考えや大工の力が加わって一般住宅が発展してきたという内容であった。もっとも面白かったのは「人類的に見ると人は何処にでも住めるのだから住宅は何でも良いのかも」との言葉だった。建築家としての生き方を問われた言葉だと思う。



長野県学生卒業設計展・コンクール

高等学校の部

長野県長野工業高等学校 建築科 佐々木 萩乃



この度は、高校生活の集大成である学生設計コンクール高校生で金賞のご評価をいただいたことはとても光栄で大変嬉しく思っております。運営に携わっていただいた方々に、心より感謝申し上げます。

長野県の自然、芸術文化、子供たちへの教育環境を考え提案した、幼稚園・小学校一貫教育の芸術学校です。豊かな自然を身近に感じながら、旺盛な感受性を持つ幼少期に日常的に芸術に触れる楽しさを知り、

感動や興奮、幸福感を実感しながら学べる教育環境となることを願いました。

美しく雄大な北信五岳は、私が生まれた時から見続けいつも生活と共にありました。この「まみくとい」を建築という形で表現できた事を、心から嬉しく感じています。



専門学校の部

上田情報ビジネス専門学校 建築学科 インテリア住環境コース 丸山 沙紀



今回建築家の先生方に設計を見て頂けたこと、また、金賞という素晴らしい賞を頂けたこと、本当に光栄に思っています。

私が建築を志したのは2年前のことです。初めての世界で右も左もわからない中ではありましたが、一生懸命に建築に向かい勉強してきました。しかし、広い建築の世界は2年経った今でもわからないことだらけで、自分の至らなさを痛感する毎日です。

また、他の学生の作品を間近で見させて頂きその思いは更に強まり、「建築に終わりはない」という先生が教えてくださった言葉が胸に突き刺さるようでした。

現状に満足してはこれ以上の建築は生み出せません。むしろ、この賞を頂いたここからがスタートで、もっと努力をしていく必要があるのだと思います。今のこの気持ちを胸に刻みこれからの建築人生を謳歌し、いつか後輩へと伝えられるような人になりたいです。

最後に、私の2年間で支えてくださったすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



大学の部

信州大学 工学部 建築学科 市川 楓



この度は、長野県卒業設計コンクールにて、金賞という評価をいただき誠にありがとうございます。審査員の先生方をはじめ、制作に携わって頂いた皆様に心より感謝申し上げます。特に浅間温泉の地域の皆様には大変お世話

になり、ありがとうございました。

今回の設計は、松本市浅間温泉が舞台です。近年観光客が減少している浅間温泉を題材に、住民を中心とする外湯コミュニティの分析を行いました。そして、住民のコミュニティの中に観光客が参加できる可能性を考え、住民と観光客の拠点となる「温泉図書館」を設計することで、温泉地

の再活性化を提案しました。住民だけでなく観光客をも巻き込む大きな浅間温泉のコミュニティを、温泉図書館の設計により実現することを考えています。

まだまだ、未熟者ではありますが、卒業設計を通して考えたように、地域に寄り添った設計提案を考え、活気のある地域にしていけるよう精進していきたいと思っています。



第24回学生卒業設計コンクール

審査結果

高 校 の 部	金賞 長野県長野工業高等学校 コバヤシ サキ タカハシ ユキ 佐々木 萩乃 まみくとい幼稚園・小学校	銀賞 飯田OIDE長姫高等学校 コバヤシ サキ タカハシ ユキ 小林沙也花・棚橋由紀子 つながりの里「民宿」「集会場」 ～小さな幸せに出会う里山の暮らし～
	銅賞 長野県長野工業高等学校 コヤマ アキナ 小山 晃奈 ACUTE	銅賞 長野県長野工業高等学校 ハナタテ ナツホ 花立 夏穂 はっぱのおみせたち ～森と一体化したショッピングセンター～
	地域会賞 長野県長野工業高等学校 ハラダ ヒサホ 原田 恭歩 音楽の村 ～音と楽器と一時を～	地域会賞 上田千曲高等学校 ササキ ユカリ 佐々木 友花里 Luisawell
	地域会賞 上田千曲高等学校 ヤマギシ ハルカ 山岸 はるか Museum of the World Culture	地域会賞 飯田OIDE長姫高等学校 ヨシカワ コトエ 吉川 琴映 「海の中の展覧会」 ～魚たちの暮らしが幻想的な世界～

専 門 学 校 の 部	金賞 上田情報ビジネス専門学校 マルヤマ サキ 丸山 沙紀 手の中の世界から	銀賞 上田情報ビジネス専門学校 ハネオカ シュンタ 花岡 舜太 Sound Space ～ぼくらが作る未来の音～
	銅賞 上田情報ビジネス専門学校 ムラマツ ナツミ 村松 南摘 結う	奨励賞 上田情報ビジネス専門学校 ミヤサカ シュンイチ 宮坂 瞬一 明日の健康のために ～ヘルスプロモーションプロジェクト～

大 学 の 部	金賞 信州大学 イチカワ カエデ 市川 楓 湯仲間 浅間温泉湯めぐり図書館	銀賞 信州大学 オオムラ コスロウ 大村 公亮 ゆらく街の境界
	銅賞 信州大学 イデ タ アサコ 出田 麻子 須崎市 「駅のまちあい学校」プロジェクト	

審 査 員	審査員長 建築家・東京大学名誉教授 内藤 廣
	審査員 JIA 関東甲信越支部 副支部長 藤沼 隆
	JIA 群馬地域会 代表幹事 曾田 彰
	JIA 新潟地域会 小松 康之
	JIA 山梨地域会 網野 明
	JIA 長野地域会 代表 山口 康

「長野県神城断層地震」について

長野県神城断層地震活動報告

山口 康憲



昨年11月22日22時8分に発生した長野県神城断層地震の被災地ならびに被災された皆様にJIA長野県クラブを代表して心よりお見舞い申し上げます。

JIAは公益法人として災害支援を活動の大きな柱と位置づけています。災害発生の翌23日午前には本部続いて支部に災害対策本部が設置され、長野県クラブは23日に川上支部災害対策委員と赤羽副支部長が白馬村に入り被害状況の把握に努めると共に、支部・本部の担当役員と小川・白馬・小谷村を訪れて災害支援協力の表明を行いました。

JIAに対しては、小川村から直接応急危険度判定及び2次調査、県の建設部からは小谷村の住宅相談の要請があり、最後に県の調整で建築士会と協同で白馬村の2次調査を行いました。内閣府の罹災証明の2次調査の運用指針が平成25年6月に改正されたことから、急遽12月1日に岡部本部災害対策委員長をお招きして講習会を開催し、また建築士会との協同活動の一環で、18日に開催された建築士会の松本と伊那の講習会には当会々員が講師を務めました。当会の支援活動への動員は1月20日までに小川村の応急危険度判定に4名、2次調査に31名、小谷

村の住宅相談に2名、白馬村の2次調査に20名、延べ57名にのぼりました。3月27日にはJIAを含む7団体に知事感謝状が授与されました。事の緊急性を理解して積極的に活動にご参加いただいた会員の皆様と、サポートしていただいた本部、支部、及び茨城、群馬、新潟地域会の皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

被災地は多くが山間部の小さな集落だったこともあり被害の把握に時間がかかりました。また、被害が大きかった白馬と小谷村は多雪地域でかつ時期的にも降雪が間近に迫っていたこともあり、各村が独自の要請を出したことで統制のとれた支援体制の構築は難しかったのではないかと推察します。

堀之内・三日市場地区は中間の軟弱な地層が被害を大きくしたようですが、山間地の集落では崖地の盛土の沈下による不同沈下が多く見受けられました。小川村はまだ降雪前だったので地盤の状況を把握できましたが、白馬村の2次調査は1mを超える積雪で内部のみの状況で判断せざるを得ませんでした。1次調査は今回自治体側で行ったようですが、2次調査との整合性も含め多雪地域での運用指針の改正の必要性を感じました。“同じ災害は2つとない”と言われますが、今回の災害を大きな教訓にJIAの今後の災害支援に生かして行きたいと考えています。



小川村 住家被害認定調査 2次調査に参加して

新井 優



長野県神城断層地震発生を受けて、JIAの動きは速かった。特に最前線の地域会として本部災害対策委員会、長野県、地元町村、実際に動く長野県クラブなど、各方面の調整役をした山口会長、大変ご苦労様でした。

災害対策においては、建築士会や事務所協会が行政とも協定を結んでおり、長野県クラブは言ってみれば新参者。被災後に各町村に無料でお手伝いするとのニュアンスが伝わったとの事で逆に頼られてしまったが、此処は公益法人の面目躍如。

クラブ内でも他団体に任せようとの意見もあったが、山口会長の方針に従い個人の思いは捨てて組織として動けるだけ働こうと機運は高まっていた。

今回、一次判定は早々に進められており、依頼のあったのは2次調査の仕事。これが幸いして、他団体は手がけておらずクラブとしての意味のある活動が出来たと思っています。岡部本部災害対策委員長の講習会も分かったような、分からないような不安な気持ちのまま、小川村に向かったのは12月5日。

小川村での第一印象は、以前災害調査に行った栄村に比較して、目に見える被災状況はあまり大きくないようにも見えた。ところが実際の被災住宅では、塗り壁が落ちているだけでは無く、擁壁がずれて地盤が斜めになったり、東石の基礎が下がったり、柱が折れたり、一軒の家でも相当箇所のダメージが見受けられた。

さらに、大きな民家に独居老人のみの世帯ではほとんどの部屋の壁が崩れ落ち、一部の部屋のみ片付けて台所食堂居間寝室的な生活をさせている姿は忘れることが出来ない。

二次調査では外部はもちろん、内部も部屋毎に被害状況の比率をダメージ程度と面積でカウントして行く作業だが、マニュアル通りにドライな数値で判断する事も人情的には割り切れない部分も残った作業だった。

さて、小川村への対応も醒めやらぬ翌日は長野県クラブの研修で輪島黒島地区へ向かった。平成19年に起きた輪島半島地震で大きな被害を受けた黒島地区は見事に復興して平成21年には伝建地区に指定されています。

神城断層地震で被災された地区も、地域の伝統文化を大切にしたい魅力有る復興が出来る事を確信した。その為には災害復興にJIA長野県クラブメンバーがエンドレスに係わっていく必要性を強く感じた。

協力会だより

—Life Up— 快適住宅の提案

株式会社カネト 高見澤正孝



当社は現在、長野県内東北信地域に4店舗を展開しておりますが、特徴はどの店舗も資材倉庫を備え、常に十分な在庫を用意していること。独自商品を含め豊富なアイテムから最適な商品を選んでいただく

ことができ、自慢の機動力を発揮して現場に納品することで信頼を得てきました。また、太陽光・地中熱暖房システムを提案し、高品質エコ住宅を希望する施主様から喜ばれています。当社商品を通じ、施主様お気に入りの快適住宅を実現してほしい—これが当社の思いです。

長野県南佐久郡小海町大字千代里2959番地2 TEL:0267-92-2501 高見澤 TEL:0268-21-0777

Smart Life Energy 電気でくらしをスマートに

中部電力株式会社長野支店 根橋 久樹



中部電力では、電気を使った快適なくらしや、ビジネス分野でのエネルギーソリューションをご提案いたします。お気軽にお問合せください。また、電気を上手に使うことで省エネで

きるご家庭向けのウェブサイト「クラブカテエネ」、エネルギーに関するお役立ち情報をお届けする法人さま向けのウェブサイト「クラブビジエネ」を開設しています。是非ご加入ください。

〒380-0805 長野市柳町18番地 TEL:026-232-9006 FAX:026-232-5175

ご予算内で最高のご提案を。こころの庭づくり

株式会社 塚田造園 塚田 豊彦



和風、洋風、規模の大小問わず、お客様の持つイメージやこだわりに応じ、伝統技術から最新技術まで、あらゆる技術を駆使してご提案いたします。

植栽においても、日本の四季に応じた彩りゆたかなプランをご提案いたします。

〒381-0043 長野市吉田4-20-13 TEL:026-241-2240 FAX:026-243-4632

お客様、お取引先との共栄を図り、社会にとって有意義な価値を創造する

都築木材株式会社 塩澤 賢一



弊社は、明治23年(1890年)創業以来木材販売を中心に新建材・サッシ・住設機器などの建築資材販売を行い、また木造在来工法・金物工法のフルプレカットを併設し、これからの環

境配慮型住宅のご提案をお届けいたします。

皆様のご要望がありましたら是非ご一報の程よろしくお願いたします。

〒396-0009 長野県伊那市日影336 TEL:0265-72-3116 FAX:0265-72-3158 URL:<http://www.tsuzukicorp.co.jp/>

お客様の「安全・安心・快適」のために。

東芝エレベータ株式会社 中村 朋幸



3・14北陸新幹線開業にあわせて、長野駅ビルMIDORIがオープンし、弊社製昇降機も多台数稼働させていただきました。駅ビルMIDORIへ納入したエスカレーターは、省スペース・省エネルギータイプのエスカレーターです。意識していないと気付か

ないかも知れませんが、一般的エスカレーターの傾斜角度30度に対し、35度の傾斜があります。また、乗り降り口のセンサーで乗降客を検出し、自動で運転速度を切り替える機能を有しています。(利用者が多いのでフル稼働していますが)長野駅ビルMIDORIのエスカレーターをご利用になる際は、傾斜角度35度を意識しながらご利用してみてください。

〒380-0921 長野市大字栗田1005 大成コートワンビル3階 TEL:026-228-5455 FAX:026-228-5842

限りない夢へ、挑戦しつづける

トライアン株式会社 林 秀樹



当社は1760年代に善光寺門前で鉄を扱う商いを初め、現在に至るまで鉄を中心とした商いを続けている会社です。建築分野ではより美しく、より快適な建築を目指して「鉄」を知り尽くしたノウハウで数多くの鉄骨工事・鉄筋工事を

手掛けています。これからも鉄を通して地域の発展に貢献していただくべく挑戦し続けます。建築分野以外でも様々な事業を行ってまいりますので、興味のある方はぜひ一度当社のホームページを覗いてみてください。

アドレスはコチラ→<http://www.tryan.co.jp/>
〒381-0026 長野市松岡2-6-18 TEL:026-251-1605 FAX:026-251-1613

開催したイベント

- 2月21日(土)・・・建築祭 文化講演会 講師:内藤 廣 氏
長野県学生卒業設計展
- 2月22日(日)・・・建築祭 長野県学生卒業設計コンクール
- 2月28日(土)・・・くらしの空間セミナー 講師:藤森照信 氏

今後の行事予定

- 4月25日(土)・・・JIA長野県クラブ 2015年度通常総会
会員集会・懇親会

お知らせ

日本エンバイロケミカルズ(株)は、大阪ガスケミカル(株)に社名変更となりました。



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

編集後記

今号は2月に開催された「建築祭」を中心に編集しました。企画・準備をされた事業委員会をはじめ関係者の皆さん大変お疲れ様でした。さて、今号で一年間編集を担当させて頂きました。原稿を寄稿して頂いた皆様、大変ありがとうございました。公益性を高め「外向けの建築家通信」を目標に掲げて、巻頭では著名な建築家の特集を組みお届けしてきましたが、どれだけ皆さんに情報が伝えられたのかは疑問が残ります。次年度は、一般の方に読んで頂けるような「建築家通信」にして行きたいと考えていますので、ご協力をお願い致します。

吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。